



2021年4月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2020年12月11日

上場会社名 HEROZ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4382 URL https://www.heroz.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役CEO (氏名) 林 隆弘
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 浅原 大輔 TEL 03(6435)2495
 四半期報告書提出予定日 2020年12月11日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

1. 2021年4月期第2四半期の業績（2020年5月1日～2020年10月31日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		EBITDA※		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年4月期第2四半期	753	△0.5	178	△35.1	152	△37.5	147	△38.4	100	△39.0
2020年4月期第2四半期	757	17.2	275	15.2	244	6.4	238	4.0	164	3.5

(参考) 持分法投資損益 2021年4月期 ー百万円 2020年4月期 ー百万円

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年4月期第2四半期	6.72	6.62
2020年4月期第2四半期	11.77	11.36

※EBITDA（営業利益＋減価償却費＋敷金償却）

(注) 当社は、2020年2月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年4月期第2四半期	6,447	6,283	97.5
2020年4月期	6,408	6,182	96.5

(参考) 自己資本 2021年4月期第2四半期 6,283百万円 2020年4月期 6,182百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年4月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2021年4月期	—	0.00	—	—	—
2021年4月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2021年4月期の業績予想（2020年5月1日～2021年4月30日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,700	10.1	230	△49.9	220	△45.6	150	△41.3	10.05

（参考）EBITDA（営業利益＋減価償却費＋敷金償却） 2021年4月期（通期）290百万円

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2021年4月期の業績予想には、現時点で当社が入手可能な情報に基づき、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響を見込んでおります。詳細につきましては、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。なお、今後の感染症の収束状況によっては、業績予想を変更する可能性があります。

※ 注記事項

（1）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（2）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

（3）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年4月期2Q	14,929,182株	2020年4月期	14,917,428株
② 期末自己株式数	2021年4月期2Q	－株	2020年4月期	－株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年4月期2Q	14,921,436株	2020年4月期2Q	13,970,934株

（注）当社は、2020年2月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

（四半期決算補足説明資料の入手方法）

四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示しています。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第2四半期累計期間	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7
(重要な後発事象)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社は、「驚きを心に」をコンセプトとして、人々の生活が便利に楽しくなるように、人工知能(AI)を活用したサービスをBtoCおよびBtoB領域で展開しております。

当社が属するAI市場では、ディープラーニング等の機械学習関連アルゴリズムの高度化に加えて、機械学習に利用可能な計算機の能力向上やデータの増加により、更なる成長が続いております。AIソフトウェアビジネスの全世界市場規模については、2018年は101億ドルとなっておりますが、2025年には1,260億ドルに達するとの調査結果もあります(出所:Tractica, Artificial Intelligence Market Forecasts, 4Q 2019)。また、我が国の経済環境は、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行による経済活動の鈍化等に伴い、国内外において景気が失速するなど、先行きが不透明な状況が続いております。情報サービス業界においては、在宅勤務等による商談機会減少の影響や、顧客によるIT投資予算の削減等のリスクが懸念される一方で、顧客企業のデジタルトランスフォーメーション推進によって需要が拡大する可能性があることを認識しております。

このような環境のなか、当社のAI(BtoC)サービスにおいては、全国的な外出自粛影響による巣ごもり需要の活性化やイベント開催等の影響もあり、AIによるサポート機能等を搭載したスマートフォンアプリ「将棋ウォーズ」が引き続き安定した収益を上げました。AI(BtoB)サービスにおいては、当社のディープラーニング等の機械学習技術を集約したAIサービス「HEROZ Kishin」に関わる業務の標準化を続けておりますが、当第2四半期累計期間は、政府や東京都から発出された緊急事態宣言中に商談機会が減少したことによる影響が継続し、初期設定フィーの獲得に遅延が生じております。また、中長期的な成長戦略を実現するための先行投資によって、採用教育費等の販売費及び一般管理費が増加しております。売上原価においては、人材採用の強化による労務費の増加に加えて、AI(BtoC)サービスの売上増加に応じて課金決済手数料も増加しております。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は753,266千円(前年同期比0.5%減)となり、EBITDA(営業利益+減価償却費+敷金償却)178,923千円(前年同期比35.1%減)、営業利益152,741千円(前年同期比37.5%減)、経常利益147,135千円(前年同期比38.4%減)、四半期純利益100,312千円(前年同期比39.0%減)となりました。

また、当社はAI関連事業の単一セグメントであるため、セグメント別の経営成績に関する記載は省略しております。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産の部)

当第2四半期会計期間末の資産合計は、前事業年度末に比べ38,985千円増加し、6,447,848千円となりました。これは主に現金及び預金の増加237,208千円、売掛金の減少153,926千円があったこと等によります。

(負債の部)

当第2四半期会計期間末の負債合計は、前事業年度末に比べ61,847千円減少し、164,274千円となりました。これは主に未払法人税等の減少44,407千円があったこと等によります。

(純資産の部)

当第2四半期会計期間末の純資産合計は、前事業年度末に比べ100,833千円増加し、6,283,574千円となりました。これは主に利益剰余金の増加100,312千円があったこと等によります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は、前事業年度末より237,208千円増加し、5,799,928千円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において営業活動の結果得られた資金は、247,049千円(前年同期は136,635千円の収入)であります。

この主な要因は、税引前四半期純利益の計上147,135千円、減価償却費の計上25,511千円、売上債権の減少額153,926千円、法人税等の支払額73,653千円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において投資活動の結果使用した資金は、11,333千円(前年同期は3,390千円の支出)であります。

この要因は、有形固定資産の取得による支出4,533千円、無形固定資産の取得による支出1,800千円、敷金及び保証金の差入による支出5,000千円があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において財務活動の結果得られた資金は、1,492千円(前年同期は12,313千円の収入)で

あります。

この主な要因は、新株予約権の行使による株式の発行による収入1,664千円があったこと等によります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年4月期の業績予想につきましては、2020年6月12日に公表いたしました業績予想の数値から変更はありません。当資料に記載した予想数値は、現時点での入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

なお、同日公表の業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症が上半期末までに収束することで、当社の事業活動を含む、国内の経済活動が徐々に回復し、下半期には正常化することを前提としておりましたが、当第2四半期会計期間末において、同感染症への各種対策は一定の効果が見られるものの、収束時期等を正確に予測することが困難な状況が続いております。

ただし、現時点で入手可能な情報等を踏まえ、当社の業績等への影響は限定的であると判断しております。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (2020年4月30日)	当第2四半期会計期間 (2020年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,562,719	5,799,928
売掛金	329,338	175,412
仕掛品	8,506	1,488
その他	34,962	32,967
流動資産合計	5,935,526	6,009,796
固定資産		
有形固定資産	131,714	110,317
無形固定資産	6,710	6,329
投資その他の資産	334,910	321,405
固定資産合計	473,336	438,051
資産合計	6,408,863	6,447,848
負債の部		
流動負債		
買掛金	20,260	17,385
未払法人税等	101,765	57,357
賞与引当金	8,004	9,266
その他	96,091	80,265
流動負債合計	226,122	164,274
負債合計	226,122	164,274
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,269,373	2,270,205
資本剰余金	3,036,644	3,037,304
利益剰余金	877,259	977,571
株主資本合計	6,183,276	6,285,082
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△536	△1,508
評価・換算差額等合計	△536	△1,508
純資産合計	6,182,740	6,283,574
負債純資産合計	6,408,863	6,447,848

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2019年5月1日 至 2019年10月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年5月1日 至 2020年10月31日)
売上高	757,147	753,266
売上原価	383,038	401,371
売上総利益	374,108	351,894
販売費及び一般管理費	129,744	199,153
営業利益	244,364	152,741
営業外収益		
受取利息	52	28
出資分配金	19	16
その他	—	6
営業外収益合計	72	50
営業外費用		
投資事業組合運用損	5,672	5,655
その他	0	0
営業外費用合計	5,672	5,656
経常利益	238,763	147,135
税引前四半期純利益	238,763	147,135
法人税、住民税及び事業税	74,732	41,379
法人税等調整額	△476	5,443
法人税等合計	74,256	46,823
四半期純利益	164,507	100,312

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2019年5月1日 至 2019年10月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年5月1日 至 2020年10月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	238,763	147,135
減価償却費	31,165	25,511
敷金償却	262	670
出資分配金	△19	△16
受取利息	△52	△28
賞与引当金の増減額(△は減少)	1,143	1,261
投資事業組合運用損益(△は益)	5,672	5,655
売上債権の増減額(△は増加)	△82,584	153,926
たな卸資産の増減額(△は増加)	10,237	7,017
仕入債務の増減額(△は減少)	△2,488	△2,875
未払金の増減額(△は減少)	△16,311	9,154
未払費用の増減額(△は減少)	△4,472	5,561
預り金の増減額(△は減少)	△5,719	5,472
前払費用の増減額(△は増加)	△1,592	△550
前受金の増減額(△は減少)	△3,144	△6,638
その他	20,020	△30,601
小計	190,879	320,658
利息の受取額	52	28
出資分配金の受取額	19	16
法人税等の支払額	△54,316	△73,653
営業活動によるキャッシュ・フロー	136,635	247,049
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,220	△4,533
無形固定資産の取得による支出	△1,170	△1,800
敷金及び保証金の差入による支出	—	△5,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,390	△11,333
財務活動によるキャッシュ・フロー		
新株予約権の行使による株式の発行による収入	12,313	1,664
自己株式の取得による支出	—	△171
財務活動によるキャッシュ・フロー	12,313	1,492
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	145,558	237,208
現金及び現金同等物の期首残高	1,494,001	5,562,719
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,639,559	5,799,928

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社はAI関連事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。